



コミュニティ指標とは

コミュニティの暮らしやそれをとりまく環境が、そこに住む人々の希望する方向に進んでいるかを示す「基準」です。

コミュニティ指標を使った地域づくりとは

コミュニティ指標を通した気づきや学びからアクションを起こし、参加を広げ、コミュニティが大切にしている暮らしや環境を、守り引き継いでいく取り組みです。

コミュニティ指標が生み出す成果

コミュニティ指標をそこに住む人々とつくり広げる中で、仲間が育ち、地域のリーダーが現れるなど、地域コミュニティの醸成が期待されます。



私たちの未来を紡ぐ 「コミュニティ指標」

持続可能な地域づくりに向けた3つのステップと実践例



実践例

- ① データ探しワークショップ
- ② ハッシュタグでデータ収集
- ③ ゴールの根拠を視覚的に示す
- ④ コミュニティ指標づくりの過程で生まれた仲間

CSOネットワークについて

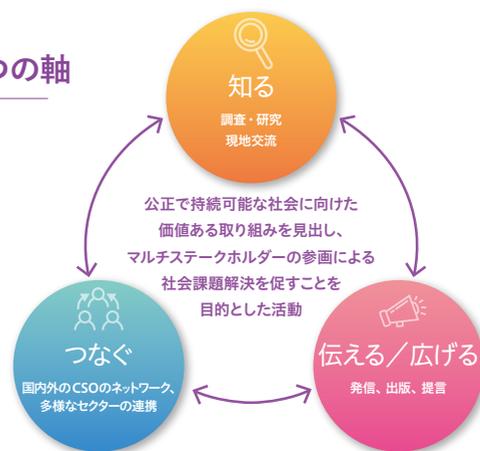
一般財団法人CSOネットワークは、「一人一人の尊厳が保障される公正で持続可能な社会の実現」をビジョンに掲げ、その実現のために、「公正で持続可能な社会の実現に向けた価値ある取り組みを見出し、マルチステークホルダーの参画による社会課題解決を促す」ことをミッションとする非営利組織です。

「持続可能な地域づくり」に関する事業では、コミュニティの皆さんとともに、課題の抽出、目標の設定、コミュニティ指標の策定を行い、地域の担い手の醸成をサポートするなど、市民参加の促進を支援する活動に取り組んでいます。

CSOネットワークの活動の4つの軸

- ①責任あるビジネスの促進・支援
- ②持続可能な地域づくり
- ③プログラム評価の実践と普及
- ④市民社会の強化

ホームページやSNSで活動を紹介しています。
(最終ページをご参照ください。)



CI-Labo: シーアイラボ (コミュニティインディゲーターズラボ)

地域の目標や計画、コミュニティ指標づくりのサポートや、調査・情報発信など、多様なメンバーによる「CI-Labo: シーアイラボ」というチームでも、持続可能な地域づくりに向けた活動を行っています。

CI-Laboについての詳細は以下のウェブページ、QRコードからご参照ください。

<https://www.csonj.org/activity2/organic/cgp-cic/member>



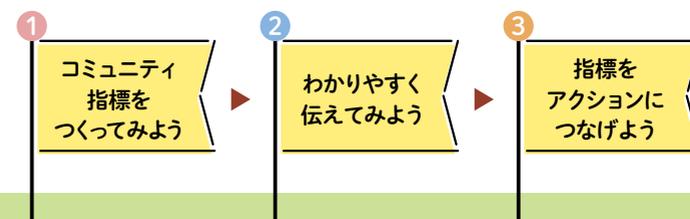
皆さんは、どんなコミュニティで暮らしたいですか？

本ガイドブックでは、コミュニティの暮らしや環境が、そこに住む人々の希望する方向に進んでいるかを示す基準「コミュニティ指標」を使って、持続可能な地域づくりに取り組む際のステップを解説します。

また、CSOネットワークが策定に協力した、黒部市地域福祉活動計画「5GOALS for 黒部」、静岡のローカル指標づくりプロジェクト「まあるいしずおか」の実践例も紹介します。



目次



1 コミュニティ指標をつくってみよう

- 1. 指標づくりに取り組む前に 2
- 2. ビジョンとゴールを設定する 4
- 3. コミュニティ指標を策定する 5

2 わかりやすく伝えてみよう

- 1. 指標を知ってもらおう 7
- 2. 伝える時に気をつけたいこと 8
- 3. 伝える方法 媒体・仕様・仕組み 9

実践例

- ① データ探しワークショップ 6
- ② ハッシュタグでデータ収集 6
- ③ ゴールの根拠を視覚的に示す 8
- ④ コミュニティ指標づくりの過程で生まれた仲間 10

3 指標をアクションにつなげよう

- 1. 仲間を増やす 10
- 2. コミュニティを自分ごと化する 11

持続可能な地域づくりに向けて、「コミュニティ指標」を地域の共通言語に 12

2. ビジョンとゴールを設定する



最初のステップは、ビジョンとゴールの設定です。
コミュニティの未来について対話を進めていきましょう。

① ビジョンを描く

コミュニティ指標は、目的地に対して、そのコミュニティが今どの辺にいるかを示してくれるものです。人それぞれ違った夢を描くように、コミュニティの目的地も多様なはず。まずは、コミュニティの未来について、そこに住む人々で話し合い、将来ありたい姿をビジョンとしてまとめてみましょう。コミュニティのビジョンを描くことで、そこに住む一人一人が大切にしていきたい暮らしのスタイルや自然・文化などをイメージとして共有することが大切です。

② コミュニティの課題やニーズを知る

ビジョンがコミュニティの中で共有できたら、次に、コミュニティの課題やニーズについて話し合ってみましょう。地域の人口動態や将来予測などの客観的データを参考にするとともに、課題の背景についても考察し議論を深めていきましょう。

③ ゴールを設定する

コミュニティの現状が確認できたら、現在地からビジョンを目指すにあたって必要と思われる目標（ゴール）について話し合ってみましょう。ゴールは、SDGs（持続可能な開発目標）のような包括的なものでなくても、コミュニティが大切にしている分野や、主体となる組織が専門とする領域を対象とする形でも構いません。

ビジョンとゴール設定のイメージ



黒部市社会福祉協議会 総務課 経営戦略係 小柴徳明氏作成の図を参考にCSOネットワーク作成

3. コミュニティ指標を策定する



いよいよ、大切にしていきたいものを測るためのコミュニティ指標を策定していきます。

① コミュニティ指標を考える

ビジョンとゴールをコミュニティの対話の中で設定することができたら、指標についても同様に、コミュニティ内の対話を通じて考えていきましょう。ゴールを実現するために必要なコミュニティの状況や人々の意識、コミュニティ内のアクションとそれによって起こる変化などを出し合い並べていきましょう。これらがコミュニティ指標の候補となります。

指標を考える際は、活動から目標の実現に至る論理を可視化する「ロジックモデル」などのツールの活用も有効です。指標の種類や形式についても学び合いながら、コミュニティが大切にしていきたいものをどのようにすれば良く測れるかを考えながら進めていきましょう。

② 指標選定の基準を確認する

指標の数が多すぎても少なすぎてもわかりにくくなってしまいうため、適切な数の指標を設定することが望ましいとされています。指標を絞り込む際の選定基準についても、あらかじめコミュニティで確認し共有しておく、実効性の高い指標や納得感のある指標づくりにつながります。

指標選定の基準には以下のようなものがありますが、コミュニティ指標をつくる目的に照らし合わせて考えていくことが大切です。

指標選定の基準	説明
1. 目的との適合性	コミュニティ指標をつくる目的に合っているか
2. 妥当性	指標が測るべき事象をきちんと計測しているか
3. 信頼性	指標が正確に計測されたものか
4. 取り組みの影響の大きさ	成果に対する指標の場合、指標に対する取り組みの影響度を意識する
5. 意思決定への有用性	指標が意思決定の参考になるか
6. 包括性	指標全体として、コミュニティが大切にしていきたいものをカバーしているか

田中啓（2014）『自治体評価の戦略 有効に機能させるための16の原則』東洋経済新報社を参考にCSOネットワーク作成

③ データの収集と目標値を設定する

指標の計測に必要なデータの収集方法には、既存のデータを活用する方法とそのため
に新たな調査を実施する方法の2種類があります。既存のデータには、行政による公的
統計や意識調査、企業のオープンデータなどの他に、コミュニティの組織が実施したア
ンケートやヒアリング調査などもあります。地域の団体に活用可能なデータを持ってい
ないかを聞いてみても良いでしょう。既存のデータが活用できない場合は、ウェブ調査
やアンケートを実施するなど、独自データの作成に取り組んでみましょう。

データ収集の際には、性別や年代、地区など属性別のデータも収集しておく、属性
ごとの分析が可能になり、取り組みの改善や提言につながる可能性が広がります。

実践例①

黒部市地域福祉活動計画 「5GOALS for 黒部」

黒部市地域福祉活動計画「5GOALS for 黒部」は、
「お互いさまの社会」をビジョンに掲げ、コミュニ
ティの人々や団体が目指すゴールを、地域の人々と
ともにわかりやすくまとめたものです。

データ探しワークショップ

「5GOALS for 黒部」では、5つのゴールまでの進捗を示す指標を設定した
後、地域の人々とともに、指標を測るためのデータ探しワークショップを開
催しました。市による「統計黒部」や、政府統計ポータルサイト「e-Stat」、
黒部市社会福祉協議会が実施した調査などからデータを探し、対話の中で絞
り込みを行いました。



実践例②

静岡のローカル指標づくり プロジェクト 「まあるいしずおか」

静岡のローカル指標づくりプロジェクト「まあるいし
ずおか」は、SDGsに関する市民のアクションを呼び
起こすために、市民参加のワークショップを繰り返して
つくられた指標です。

ハッシュタグでデータ収集

「まあるいしずおか」では、地域の皆さんで定めたゴール「水を巡る環境を
守り育てる社会」を測る指標として、「再生可能エネルギーへの切り替え」や
「テイクアウトの際のマイ容器の持参」を設定し、アクションを起こした人に
ハッシュタグをつけて投稿してもらうことで、アクション数の収集と写真の共
有を行っています。



2

わかりやすく 伝えてみよう



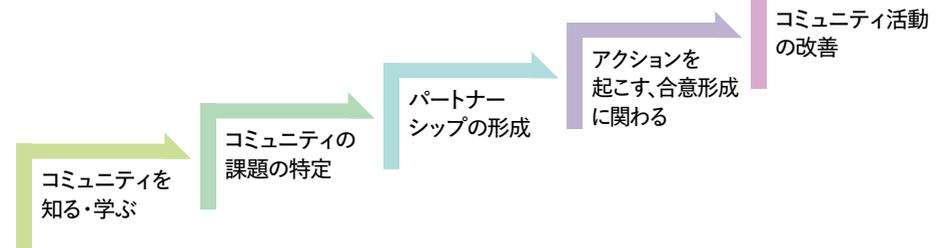
1. コミュニティ指標を知ってもらおう

コミュニティ指標はつくって終わりではありません。ワークショップへの参加など
直接策定に関わった人の輪を超えて、より多くの人々に知ってもらうことで、コ
ミュニティ指標づくりの大きな目的である「様々なレベルのコミュニティ参加」を
進めることにつながっていきます。

① 目的を再確認する

伝えようとする前に、コミュニティ指標の目的を再度確認してみましょう。
ビジョン・ゴール・指標を参加型でつくる過程で、新たな目的が見えてきたり、
複数の目的を目指すようになっているかもしれません。

再確認した目的を踏まえて、伝える方法を考えていきましょう。



② 伝えたい相手を明確にする

コミュニティには、年齢、性別、職業などの多様な人々が暮らしています。できるだ
けたくさんの様々な人たちに指標を知ってもらうために、伝えたい相手を明確にして
みることも重要です。

年代や所属、居住地域など、伝えたい相手の属性を特定することにより、伝え方や伝
えるポイント、次のステップなども具体化していくことでしょう。

2. 伝える時に気をつけたいこと

届けたい相手によって、伝えるポイントや使うべきデザインに違いはありますが、一方で、コミュニティの皆さんに指標について伝える際に、気をつけたい共通のポイントもあります。



① わかりやすく魅力的に伝わるよう工夫する

指標づくりに関わらなかった人やコミュニティに関心のない人を想定し、誰にでもわかりやすく関心を持ってもらえる伝え方を心がけましょう。取り組みの目的や経緯など、伝えるべき要素はもれなく簡潔にまとめ、写真や図、イラストやロゴなどの視覚的要素を活用して、雰囲気や仕組みが魅力的に伝わるよう工夫してみましょう。

② 公開性・透明性・双方向のコミュニケーションに配慮する

多くの人に知ってもらい関心を持ってもらう前提として、コミュニティ指標づくりのプロセスが誰にでも開かれていることも重要です。

コミュニティの誰でも、希望すれば取り組みの途中から参加できるよう、これまでの経緯をまとめた動画を作成したり、定期的な進捗報告会を開催したり、常にオープンで透明性に配慮した姿勢で伝えていくことが望まれます。

報告会やSNSなどを活用して、コミュニティから意見をもらい、取り組みの見直しや改善を行うなど、双方向のコミュニケーションを心がけることも大切でしょう。

実践例③

ゴールの根拠を視覚的に示す

黒部市地域福祉活動計画「5GOALS for 黒部」では、ゴール策定の根拠となる課題やニーズを直感的に理解してもらえるよう、地域のデータをインフォグラフィックを使って表しました。



3. 伝える方法 媒体・仕様・仕組み



伝える媒体は、ウェブサイトやSNSなどが中心になると思いますが、様々な人に関心を持ってもらうために、パンフレットなどの紙媒体や、シールやバッジなどのグッズなど様々な媒体を取り混ぜて発信することも有効です。

仕様や仕組みとしては、北米のコミュニティ指標プロジェクトでよく使われる、「ダッシュボード」や、ウェブページ作成の際の導線への配慮なども参考にしてみてください。

① ダッシュボードを活用する

ダッシュボードとは、指標の計測値などのデータを図表を用いて示す、ウェブページ上のレイアウト仕様のことです。北米のコミュニティ指標のダッシュボードでは、目標達成までの進捗を、イラストや記号などで視覚的にわかりやすく表わしたものが多く、コミュニティの現在地が一目でわかるよう工夫されています。

分野別・属性別にデータを検索できる機能がついているものもあり、コミュニティの課題の発見から気づきやアクションにつながる可能性を秘めています。

	5 YEAR BASELINE	MOST RECENT	TARGET	5 YEAR TREND	ON TRACK TO TARGET?
Percent of kindergarteners who are school ready	41% in 2015	50% in 2019	70% by 2023	 BETTER	

Community Advancement Network 「Dashboard 2021」より

② 指標をアクションにつなげる工夫をする

指標をアクションにつなげたり、パートナーシップの構築をコミュニティ指標の目的に掲げる場合は、ゴールや指標につながる地域活動や地域組織を、ウェブサイト上で紹介することが有効です。その際、ゴールや指標に対する理解や気づきが、スムーズにコミュニティのアクションや組織につながるよう、指標からアクションへのサイト上の導線を意識すると良いでしょう。

地域のボランティアセンターや市民活動センターなどとも連携しながら、コミュニティ全体の取り組みになるよう進めていきましょう。

3

指標をアクションにつなげよう



1. 仲間を増やす

コミュニティ指標の取り組みは、地域の現状や将来に対する気づきをきっかけに、そこに住む人々がアクションを起こし、それによってコミュニティを目指す方向に育て上げていくことを目的としています。一人一人のアクションを通じて、指標からコミュニティの醸成を紡ぎ出していくためには、取り組みに共感する仲間を増やしていくことが重要です。仲間がいることで、アクションが生まれやすくなり、活動の継続も容易になるでしょう。また、すでに取り組み蓄積されているコミュニティの様々な活動との連携にもつながっていくはずですよ。

実践例 4

コミュニティ指標づくりの過程で生まれた仲間

黒部や静岡の取り組みでは、コミュニティ指標づくりのプロセスの中で、地域に関心を持つ仲間が増え、アクションに向けた人のつながりが育まれていきました。その仲間たちが中心となり、指標づくりの次のステージである、指標を伝えたり、指標を使って測ったりする活動を進めています。

活動状況は以下ウェブサイトをご覧ください。



黒部市地域福祉活動計画
「5GOALS for 黒部」

<https://5goalsforkurobe.com>



静岡のローカル指標づくり
プロジェクト「まあるいしずおか」

<https://ls-shizuoka.jp/>



黒部市地域福祉活動計画「5GOALS for 黒部」
策定ワークショップの様子



静岡のローカル指標づくりプロジェクト「まあるいしずおか」策定ワークショップの様子



2. コミュニティを自分ごと化する

データや指標には個々に目的や背景があり、作成者の意図や立場が反映されていると考えられます。コミュニティに住む人々が主体的にコミュニティに関わり、目指す方向に向けたアクションを起こしていくためには、既存のデータをコミュニティの観点から解釈・翻訳したり、コミュニティ自らデータや指標を作っていくことが必要です。

① オープンデータを翻訳する

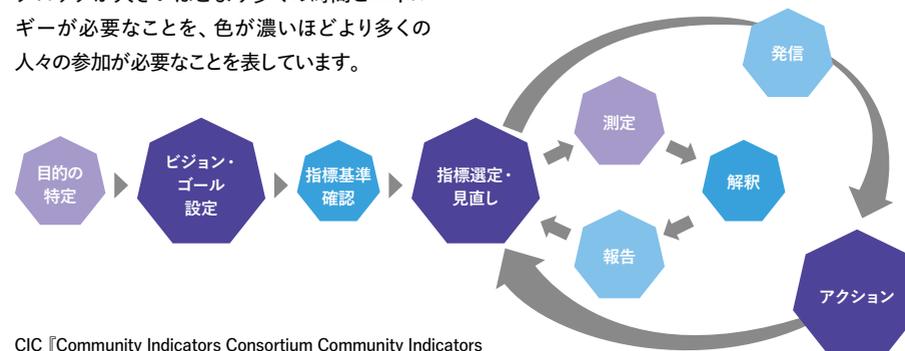
行政や企業などによる既存の公開データを、コミュニティの大切にしている価値観や次世代に継承したい持続可能性の観点から解釈し、わかりやすく「翻訳」して提供することが、取り組みの主体には求められます。解釈や翻訳をコミュニティの人とともに行う場を提供することも有益でしょう。

② コミュニティの情報をデータ化する

コミュニティ指標の取り組みは、私たちの暮らしや地域を、私たちの視点で自ら測り、改善していく営みです。暮らしを支える環境、社会、経済の様々な側面から、コミュニティの目指す方向性を反映したデータをつくり発信することで、地域の政策の改善や発展、地域内の合意形成が進むことが期待されます。

コミュニティ指標の取り組みのプロセス

ブロックが大きいほどより多くの時間とエネルギーが必要なことを、色が濃いほどより多くの人々の参加が必要なことを表しています。



CIC 『Community Indicators Consortium Community Indicators Project Development Guide』をCSOネットワーク改訂

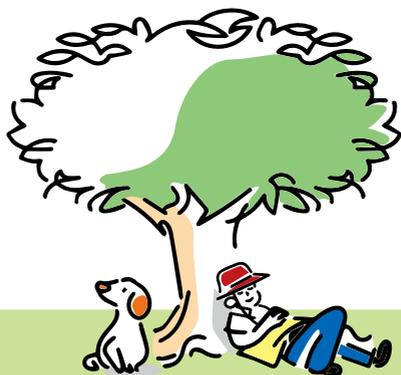
持続可能な地域づくりに向けて、 「コミュニティ指標」を地域の共通言語に

私たちは、毎日の暮らしや仕事の中で様々なデータや指標に接し、社会の動きを理解したり、時にはそれらを基にものごとを検討したり判断したりしています。一方で、身近な暮らしを良くしたり、そこに住むコミュニティをより良く次世代に繋いでいくためのデータや指標については、どのくらい知っているでしょうか？

従来、指標は、誰かから与えられ、それによって評価されるものだったのではないのでしょうか。指標は社会を導くパワーを持っていると言われますが、私たちは、これまで、従来の指標が指し示す方向に向かって、目的地をみんなで確認し合うことなく歩み続けてきたのかもしれない。

コミュニティ指標の取り組みは、地域の目指す方向性をそこに住む人々自身が決め、それに向けたアクションや変化を、指標を使って測っていく「持続可能な地域づくり」の取り組みです。指標をコミュニティの共通言語として、地域の多様な人々が地域に参加することによって、コミュニティの人や組織が紡がれていくことを願っています。

一般財団法人CSOネットワーク
2022年3月



HP
<https://www.csonj.org/>



Facebook
<https://www.facebook.com/csonj/>



YouTubeチャンネル (一般財団法人CSOネットワーク CSO Network Japan)
<https://www.youtube.com/channel/UCheMxqfn6iM3xjZ0sfJgRhA>



Twitter
@CsoNetwork_JP

私たちの未来を紡ぐ「コミュニティ指標」 持続可能な地域づくりに向けた3つのステップと実践例

2022年3月31日 初版

編集・発行： 一般財団法人CSOネットワーク
〒169-0051 東京都西早稲田2-3-18 アパコビル5階
TEL : 03-3202-8188 FAX : 03-6233-9560

執筆・編集：長谷川 雅子、梁井 裕子

デザイン：大滝 奈緒子 (blanc graph)

*本書の一部または全部を許可なく複製・複製・転載することは著作権の侵害になります。

© 一般財団法人CSOネットワーク

*本ブックレットは、2019～2021年度、国際交流基金日米センター (CGP) の助成を受けて作成しました。

● 謝辞

本ガイドブックで紹介した「5goals for 黒部」の取り組みでは、黒部市社会福祉協議会の小柴徳明氏に、「まあるいしずおか」の取り組みでは、しずおかSDGsネットワーク代表の木下聡氏に大変お世話になりました。また、Community Indicators Consortium (CIC) の取り組みやCIC元事務局長のChantal Stevens 氏からも多くの学びをいただきました。

これまでCSOネットワークの地域の取り組みをご指導くださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。